

・九十九里地域（43ページ）

九十九里平野には、広々とした水田がつづいています。

この地域には大きな川がないため、雨が少ない時には、水が不足して稲が育たずお米が穫れなくなってしまう、生活ができなくなる農家の人もいました。

そこで、利根川から九十九里平野に水を送る計画をたてました。1935（昭和10）年から1951（昭和26）年に大利根用水路工事が、1943（昭和18）年から1965（昭和40）年に両総用水路工事が行われました。

大利根用水は、東庄町の笹川から利根川の水を取り入れて、九十九里平野の北側の水田をかんがいしています。



東庄町にある笹川揚水機場



香取市にある両総第一揚水機場

両総用水は、香取市の岩ヶ崎から利根川の水を取り入れて、九十九里平野の南側の水田をかんがいでいます。

このように、2つの用水路工事によって、九十九里平野の農家の人は、安心して農業ができるようになりました。

・北総台地（43ページ）

銚子から成田, 千葉北部地域へとつづいている北総台地でも, 農業用水はほとんど雨と湧き水にたよっていました。

このため, 1970(昭和45)年に, 利根川から北総台地に水を
送る用水路工事がはじまりました。

水田や畑では, 水が安心して使えるようになったので, たく
さんの野菜やくだものもつくられるようになってきました。



とうそう ようすい
東総用水のファームポンド
(すいりょうちようせい しようためいけ)
(水量調整用の小溜池)



なり た ようすい しゅすいこう しんかわ
成田用水取水口 (新川)



ほくそうとう ぶ ようすい そうごうかんりしよ
北総東部用水の総合管理所

(4) 工場で使う水

わたしたちの身のまわりには、工場で作られたものがたくさんあります。

1955（昭和30）年ごろから、東京湾に面した京葉地域に大きな工場がたくさんつくられ、多くの水を使うようになりました。

・工業用水（44ページ）

工場では、原料や製品をあらったり、冷やしたりするのに大量の水が使われています。

地域によっては、地下水を多く使うと地盤が沈下するおそれがあるので、千葉県では川や沼から水を取り、工場まで水を送る仕事を行っています。



さくらじょうすいじょう
佐倉浄水場（佐倉市）



こおり
郡ダム（君津市）



せいてつじょ
製鉄所のようす（JFEスチール）

熱した鉄を冷やし、表面をきれいにするために、たいへん多くの工業用水を使います。

鉄を1トンつくるのに、お風呂377杯分（約113トン）の水が必要です。